

参考資料5

## 知床世界自然遺産登録20周年事業 「世界遺産と地域」の進捗について

### 1. 経過

標題の事業について提案・報告・協議を行った。

- 2025.3.5 2024年度第2回科学委員会
- 2025.3.24 2024年度第1回地域連絡会議
- 2025.4.16 知床世界遺産地域20周年記念実行委員会
- 2025.6.27 2025年度第1回エゾシカワーキング会議
- 2025.7.8 知床世界遺産地域20周年記念実行委員会
- 2025.7.15 2025年度第1回海域WG会議
- 2025.7.31 2025年度第1回ヒグマWG会議
- 2025.8.1 2025年度第1回エコツーリズムWG会議
- 2025.8.5 2025年度第1回河川工作物AP会議
- 2025.10.30 2025年度第1回エコツーリズム検討会議

また、以下の事業を実施した。

- 2025.11 委員長・各WG座長に科学委での取組みをまとめる原稿を依頼
- 2025.11.13 知床シンポジウム(斜里町)を開催

### 2. 実施体制

主催／ 公益財団法人 知床財団

共催／ 知床国立公園60周年・世界遺産20周年記念事業実行委員会

(環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道・斜里町・羅臼町)

後援／知床世界自然遺産地域連絡会議・知床世界自然遺産地域科学委員会

### 3. 知床シンポジウム(地元開催)の実施結果

実施日： 2025年11月13日(木) 13:00～16:00

開催場所： 斜里町公民館ゆめホール知床 公民館ホール

\*Webによるライブ配信を実施

参加実績： 140名

## 実施プログラム：

### 開催概要

知床は2005年、日本で3か所目の世界自然遺産に登録されました。

以来、科学的知見と地域参画を両立させた「知床方式」による保全管理は、全国のモデルとして定着しています。登録から20年を迎える今、人口減少や環境変化など新たな課題の中で、自然と地域社会の関わりが改めて問われています。本企画では、観光や漁業など地域のくらしと産業に深く関わる方々が登壇し、この20年の歩みを振り返りながら、知床の自然が地域にもたらす価値や今後の地域のあり方について議論します。

### プログラム

#### 開会挨拶

山内 浩彰 氏 [斜里町長]

#### 基調講演



##### 地域とあゆんだ 世界自然遺産登録20年

黒田 芳人 氏

[北海道環境生活部 自然環境局  
自然環境課 主査 (知床遺産)]

千葉県出身。大学卒業後、東京の旅行会社に勤務し、2020年に北海道へ移住。環境省稚内自然保護官事務所で国立公園の利活用推進等に従事。2022年、北海道庁入庁。道有林管理や自然環境行政を経て、2025年より現職。



##### 知床観光の20年

河井 謙 氏

[一般社団法人知床しゃり 専務理事]

大学時代に知床に通い、そのまま斜里町役場に就職。3年半は自然環境、15年は商工観光を担当。知床の魅力を活かした持続的な地域づくりに貢献するべく、2024年に役場を中途退職し、行政と民間の中間的な同法人に移籍。



##### 地域産業としての 漁業とその変化

任田 勉 氏

[羅臼漁業協同組合 参事]

豊頃町出身。北海道漁業協同組合学校を卒業後、2019年羅臼漁協に入所。総務部長、信用部長、指導部長等を経て、2021年4月より参事。趣味は土いじり。千島桜や紅葉を鉢植えに育て鑑賞している。

### パネルディスカッション

#### 世界遺産と地域の20年～これまでとこれから～



湊屋 稔 氏

[羅臼町長]

現 羅臼町長。家業の有限会社湊屋漁業で漁師をしながら1999年有限会社らうす海洋深層水代表取締役に就任。2007年から羅臼町議会議員を8年間務め、2011年知床羅臼町観光協会副会長、2013年から2年間会長を務め、2015年から町長に就任し現在3期目。



増田 泰 氏

[斜里町 副町長]

現 斜里町副町長。知床博物館で13年学芸員として勤務し、2005年から3年間自然保護係長。その後、知床財団で10年勤務。役場で環境課長、総務部長を経て現職。大阪府出身の獣医師。

#### 登壇者③

河井 謙 氏 [一般社団法人知床しゃり 専務理事]

#### 登壇者④

任田 勉 氏 [羅臼漁業協同組合 参事]

札幌シンポジウムに向けたまとめとコメント

WEB参加

愛甲 哲也 氏 [北海道大学教授・科学委員会座長代理]



村田 良介 氏

[公益財団法人知床財団 理事長]

公益財団法人知床財団理事長。知床博物館学芸員、斜里町環境保全課長、教育長などを経て現職。環境保全課長時代には「世界遺産登録」を担当。知床の海と沢と山をこよなく愛す。

### 閉会挨拶

湊屋 稔 氏 [羅臼町長]

#### 4. 今後の予定 - 総括シンポジウムの実施

実施時期: 2026年2月28日(土) (翌日に第2回科学委員会)

\*開催時間は調整中

開催場所: 札幌市 赤れんが庁舎 赤れんがホール

実施方法: 一般公開・webによるlive配信を予定

定員 130名

プログラム(案):

○開会挨拶

○基調講演 登壇者調整中

○事例発表 発表1 世界自然遺産登録20年のあゆみ(行政関係者)

発表2 仮/知床観光の20年(地域関係者)

発表3 仮/地域産業としての漁業とその変化(地域関係者)

発表4 知床世界自然遺産科学委員会の取組みと役割(科学委委員)

○パネルディスカッション

「知床世界自然遺産地域のガバナンスと地域のこれから」

#### 5. 今後の予定 - 原稿の依頼と記念誌の発行

今年度第1回会議では、遺産登録前から現在に至るまでの各WG/AP会議における主要課題や議論テーマについて中期(3年~5年)的なスパンでその変遷を把握し、これらへの対応や施策について振り返りを行った。これを踏まえ、委員長および各座長には、それぞれの取り組みとその成果、今後の展望について総括的などりまとめの原稿依頼を行った。

委員各位においてもA4版数ページ程度の寄稿を依頼したい。具体的な分量、様式については今月中を目途に追ってご連絡する。締切は1月下旬としたい。これらをとりまとめ、総括シンポジウムの資料とともに、来年度記念誌に取りまとめる予定。

具体的な内容としては以下を想定している。

- ・ 知床WNHSの、自然環境/社会環境における脅威や共通課題はなにか。
- ・ これらについて、各WGで重点的に取組むべき課題はなにか。また、科学委全体としての共通課題はなにか。
- ・ 知床WNHSのガバナンスにおいて、科学委員会/WGの枠組みや役割はどのようにあるべきか。